



2012年2月11日

NPO ニュークリア・サロン

代表理事 藤家洋一

福島第1原子力発電所事故を教訓に原子力科学技術の将来を目指そう

国際シンポジウム開催のご案内(2次募集)

1. 開催趣旨

福島第1原子力発電所事故は、冷却異常からメルトダウンに発展し、放射性物質の大量放出につながりました。私たちNPO ニュークリア サロンは事故発生直後からこの事故を直視し、特に環境影響に主点をおいて事故の総体を把握することに努めており、アジア諸国を中心にまた欧米、ロシア、ブラジルなどに情報を提供し、事故の内容を説明し、理解を求めてきました。福島第一原子力発電所事故は幸い、「周辺公衆の人命を失うことなく収束」できそうであり、またこの事故を教訓とすることは今後の「アクシデントマネージメントの確立」など原子力安全の向上のみならず、「利用から調和へ」と理念の転換を目指す文明の方向にも多くの教訓を残していることに気がきます。この実績を踏まえて、積極的に原子力開発を進めているアジア諸国に参加を呼びかけ、新しい「核反応に根差す文明の構築」に向けて原子力科学技術の将来を語り合う国際シンポジウムを開催します。

2. 参加の呼びかけ

(1) 福島第1原子力発電所事故に学ぶ

福島第1原子力発電所事故は、国の内外で大きな反響を呼んでいます。中には原子力発電からの撤退を決めたヨーロッパの国も見られます。その影響の大きさから言えば、原子力をエネルギー源の確保の観点からだけでなく、広く文明をその根幹で支える「核反応に根差す総合科学技術」としての存在価値にまで遡って考える機会とすべきかもしれません。

一方、代表理事が訪ねた多くの国は、日本のこれまでの原子力開発に対する姿勢を評価し、こ

の事故も見事に克服し、再び協力すべき仲間として復帰し、原子力開発でのこれまでの国際的に高い評価に足る展望を見せることを期待しています。原子力はそのスケールからいっても単に一国に限られた科学技術ではなく、アジアにそして世界に影響しあうものと言えるでしょう。また、当該国にとってはその国の生きざま、地政学的宿命の克服など広い観点から見る必要があります。

(2) 日本の地政学的宿命と拠って立つ基盤

日本が資源小国で国土狭隘という宿命をどのように克服しようとしたかは、近代史的に見れば、明治維新で「技術立国」を目指して広く欧米の技術を取り入れ、きめ細かな精度のよい技術を作り上げてきたことに始まると言えるのではないのでしょうか。レントゲンのエックス線発見の40年あまり前のことでした。農業立国あるいは観光立国に至らなかったのは理解できます。

しかし、1945年の広島・長崎への原爆投下で、化学反応のエネルギーとは格段に違う核反応のエネルギーで20万人を超える同胞を瞬時に失い、敗戦からの立ち直りが大きな課題でしたが、日本はこの悲劇を克服し、「原爆反対と原子力の平和利用」をうたい、新しい民主主義社会を構築する気概を見せて立ち上がりました。原爆被爆者の救護にあたった永井隆博士が原爆被爆者救護報告書の結言で述べている、「この巨大なエネルギーを平和目的に利用することができれば世の中は一変するであろう」との見事な発想は原子力基本法に生かされているのです。

未知の核分裂反応の持つ世界への船出がこの様に行われ、その中心にあるのは「安全を旨とし」に象徴される思想であり、「利用から調和へ」を新しい「核反応に根差す文明」の理念と相俟って、エネルギーシステムに対してはその目指す方向が「資源確保と環境保全の同時達成」であると説き、その先端性は「放射線の先端利用」で発揮されると考えると両者は密接につながり、全体として総合性を発揮できるのではないのでしょうか。

(3) 原子力科学技術の将来を展望するために

NPO ニュークリア・サロンは、日本が福島第1原子力発電所事故を克服することを通じて、アジア諸国との連帯を深め、「新しい核反応に根差す文明の構築」に向けて、原子力科学技術の将来を目指し、協力しあうことが重要と判断し、この国際シンポジウムを開催することとしました。アジア諸国を始め広く参加を呼びかけ、同時に福島第1原子力発電所事故の教訓を活かして立ち上がろうとしている日本の諸兄弟にも参加を呼びかけます。

3. 実施概要

(1) 開催日時 2012年4月11日(水)～14日(土) 4日間

(2) 実施内容

初日 国際シンポジウム(東京、タワーホール船堀 都営新宿線船堀駅前)
レセプション(東京、一ツ橋 如水会館 地下鉄神保町駅又は竹橋駅徒歩4分)

2日目 国際シンポジウム(続き)

3日目 国際シンポジウム(JAEA 大洗研究開発センター)

見学ツアー(大洗、東海:JAEA 大洗研究開発センター、JAEA 原子力科学研究所)

4日目 見学ツアー(女川 東北電力女川原子力発電所)

(3) 使用言語 英語(必要に応じて通訳がつきます。)

(4) 主催 NPO ニュークリア・サロン

4. 問い合わせ先

国際シンポジウム実行委員会 事務局

NPO ニュークリア・サロン

〒113-0034 東京都文京区湯島1-11-10石島ビル5階

☎:03-6801-6531 ファクス:03-5840-9690

E-メール:nsf@onyx.ocn.ne.jp

<http://www.ns-fuji-ie.jp/NPO/NPO.html>

次ページの日程表は今後、変更があり得ます。

福島第1原子力発電所事故を教訓に原子力科学技術の将来を目指そう(案)
国際シンポジウム(2012. 4. 11-14) NPO ニュークリア・サロン 2012.2.11 R13

	4月11日 水 シンポジウム(東京、タワーホール船堀)	4月12日 木 シンポジウム(東京、タワーホール船堀)	4月13日 金 シンポジウム・見学ツアー(大洗・東海) 移動(水戸→大洗)	4月14日 土 見学ツアー(女川)
9:00	1. オープニング	5. 各国からの発表	7. 先端科学技術としての高度放射線 応用の分野、領域と展望	移動(仙台→女川)
10:00	2. 福島第1原子力発電所事故の概要	休憩	8. クロージング	
	休憩	5. 続き	見学 高速実験炉「常陽」 JAEA大洗研究開発センター	見学 東北電力女川原子力発電所
11:00	2. 続き			
	3. 原子力安全と放射線安全の乖離の 現状と今後の融合に向けて	昼食	昼食	昼食
12:00	昼食			
	3. 続き	5. 続き	見学 大強度陽子加速器施設J-PARC JAEA原子力科学研究所	見学 続き
13:00				
14:00	4. 原子力開発の将来展望	休憩	移動(東海→仙台)	移動(女川→東京 21:00)
	休憩			
15:00	4. 続き	6. パネルディスカッション アジアを中心とした国際協力		
16:00	移動(船堀→一ツ橋)	移動(船堀→水戸)		
17:00				
18:00	レセプション(如水会館)			
19:00				